



# FUJITSUBO TE37 LEVIN PROJECT #06

TEXT : Nostalgic SPEED/編集部

PHOTO : MOTOSUKE FUJII(SALUTE)/  
藤井元輔(サルーン)

COOPERATION : FUJITSUBO/藤壺技研工業

TEL 055-998-0130 <https://www.fujitsubo.co.jp/>

WORK/ワーク <https://www.work-wheels.co.jp/>



## WORK EQUIP 01を装着! 当時のスタイルがよみがえる

クスコの足まわり、エンドレスのブレーキとチューンアップを進めてきたところで、今回のTE37レVINは足元のホイール交換となった。当時の雰囲気をイメージしてセレクトしたのは、40年以上の伝統を誇るEQUIP 01。ツライチ具合も絶妙に決まった!





クスコの全長調整キットとピロアッパーマウントにより、車高とキャンバー角を調整し、いい感じのツライチを実現。4本スポークの間からは、エンドレスのSM6キャリパーがのぞくこともあって、かなりスポーティーな足元にランクアップした。

エキゾーストは、2T-G型レース用復刻EXマニホールドに、TE37レビン用試作品マフラーの組み合わせ。テールエンドには、当時の富士スピードウェイのコースとフジツボの「F」をモチーフにデザインされたマークがアクセントになる。



**Next!**

**前席をセミバケにアップグレード!**

足まわり、ブレーキ、ホイールとチューンアップが進行し、次は車内をグレードアップする予定。ホールド性がよく、疲れにくいシートに交換予定だ。



センターキャップは、黒ベースにシルバーのエンボスロゴが輝く。スポークはナットホールを避けるように設計されているため、スポークの長さが引き立っている。ピラスポルトは、ブラックカットクリアのカラーに合わせたブラック。ホイール裏面には、WORKのロゴやサイズなどが打刻されている。



**EQUIP 01**

**FUJITSUBO  
TE37 LEVIN  
PROJECT #16**

**40年以上も受け継がれる  
伝統のフォースポークデザイン**

前号のエンドレス・ブレーキの装着に続き、作業はフジツボの開発室のピットでスタート。用意されたホイールは、ワークのエクイップ01。数あるワークのホイールの中でも、1977年の創業時から受け継がれている名作だ。当時は、エクイップはブランド名ではなく、商品名として登場したのが初代エクイップだ。当時は1ピースモデルとして人気を得ていたが、惜しまれつつ生産終了となった。だが、ユーザ1からの声に添えて、2001年に3ピースモデルとして復活したが、現在も販売されているエクイップ01だ。

初代エクイップの血統を色濃く受け継いだ01は、シリーズの代表、顔ともいえる超ロングセラーモデルだ。4本スポークの個性的なシャープなデザインのディスクは、切削加工が施されることで、面の美しさとエッジのシャープ感を生み出している。また、伝統のやや先細りとなるスポークデザインは、クルマの足元に軽快感を演出する。

また、3ピースモデルで復活する際に各部が見直され、初代を上回る性能と品質にレベルアップ。サイズバリエーションも豊富にラインアップする。準備されたエクイップ01のサイズを確認したところ、フロントが15×6.5Jインセット16、リアが15×7.5Jインセット3というスベック。タイヤは、ブリヂストンポテンザRE-71RSの15インチで、フロントに185/55、リアに195/55を組み合わせる。

ただし、フロントにはエンドレスの6ポットキャリパーSM6を組み込んでいるため、ホイールの逃げが気になったが、問題なくクリア。車高とキャンパー角を調整することで、いい感じのツライチにセットすることができた。